

愛護の意味とは？ 兵庫県動物愛護センター訪問

動物の数をコントロールする方法として、現在西ヨーロッパ大陸諸国、英国、それにアメリカ合衆国では、従来の安楽死処分から、避妊去勢手術と新しい飼い主を探すやり方に移っています。一方、開発途上国では、今だに毒殺、銃殺、その他残虐な方法による大量殺処分に頼っています。しかし統計によると、いかなる手段であれ、殺すことは増え過ぎた動物の数を減らすことに何の効果もないことが証明されています。同時に、避妊去勢手術を推進することが必要なのです。

では、日本の現状はどうでしょうか？

ここ数年全国に増えている保健所や管理センターなどの動物収容施設は、「動物愛護」センターや、「動物福祉」センターと呼ばれるようになってきました。この呼び名はどういう意味なのか、以前の動物殺処分センターとどう

違うのか、疑問を解くために、2年前に巨額の費用を投じて建てられた、尼崎市にある兵庫県動物愛護センターを訪ねました。

センターの敷地は、樹木や芝生がきれいに配置されていて、テーマパークとミニ動物園の間といった感じでした。入口には「ドッグパーキング」という自転車置き場の様な仕切りがあり、来訪者が連れて来たペットを繋ぐようになっています。「動物愛護センター」だというのはおかしな話です。中には、広々としたトレーニング室と、他に子供たちがスタッフの指導のもとに動物に触れることのできる部屋があります。また、ペット・インスピレーション・ホールでは、様々な種類の電子装置やビデオを使って、動物とは何か、どういう行動をとるのかを、コンピューター・ゲーム好

きの現代っ子にわからせるようになっています。実際に動物に触ったり、世話をしたりする現実感に欠けていて、むしろファンタジーの世界です。私たちは金曜日の午後ずっとセンターにいましたが、他に訪問者はいませんでした。週末に訪れる人が多いのでしょうか。

センターには、兵庫県と尼崎市の両方が活動拠点を置いていますが、それぞれ独自の施設を持ち、別々に運営しています。地元市民は、動物をここで殺さない事と、鳴き声と臭いを外に漏らさないことを条件にセンター設立を認めました。野良犬の収容場所は要塞のような建物で、内部はまるで中世の地下牢の様です。部外者は中を見る事が出来ません。建物は、そこで働く人の便宜と、地元市民の要望に応えるように設計されていて、犬への福祉が無視されていることは明らかです。分厚い金属製

の檻には鎖と滑車が付いています。コンクリートの床は、たえず水をかけて洗っているため冷えきっていて、余命いくばくも無い犬にとって、拷問室以外の何物でもありません。「ここに長期間入れられた犬は、病気になるでしょう」とセンター所長も認めていました。(病気だけではなく、気が狂うことなのでしょう)せめて、毛布ぐらいはあるのでしょうか？とんでもない。

職員はその場所を無菌状態にしておきたいので、細菌が繁殖して処理するのがむずかしい毛布なんて、とんでもありません。暖房ですか？建物の構造上も無理だし、臭いがひどくなるので、不可能だと言うのです。そして、この「拷問」の果てに、さらに過酷な運命が待っています。癒えることのない深い傷を受け、おびえきった動物はその場で安楽死処分すられずに、トラックで2時間かかって神戸の北、

どうぶつたちへの レクイエム



児玉小枝

この子たちは、殺されるために生まれてきたのではありません！

どうぶつたちへのレクイエム 児玉小枝

大41万4506、猫30万7626一。これは、全国で1年間に殺処分された「いのち」の数です。今の日本の社会で、どうぶつと人間が共存していくためには、私たち人間が社会のルールやマナーを守り、どうぶつたちの「いのち」に責任を持って暮らしていくほかはありません。ご覧いただく写真は、動物収容施設でいのちを絶たれていったどうぶつたちの、誇り高さ最後の肖像です。あの日の光の瞳を、私は生々忘れないでしょう。

この書を通して、決して持たないどうぶつたちの声なき声が、あなたの心に届きますように。

桜桃書房 本体 1,400円＋税

ings. There is a spacious indoor training room and another one where children are encouraged to pet animals under the guidance of the staff. There is also a 'pet inspiration' hall where all kinds of technological effects including videos, designed to appeal to the present generation of computer game-orientated kids to show what animals are and how they behave. It is more of a fantasy, out of touch with the reality of practical handling and keeping animals. We were at the centre for an entire Friday afternoon but there were no visitors. Apparently weekends are more popular.

Both Hyogo Prefecture and Amagasaki city are based at the centre but operate separately with their own facilities. Since the local citizens only gave permission for the construction of the centre on the condition that no animal should be killed there and that animal noise and smells must be eliminated, the building

While countries in Western Europe, Britain and the United States have been moving away from high volume euthanasia as a means of animal population control to neutering and rehoming, under-developed countries still resort to mass extermination often by poisoning, shooting and other barbaric methods. But statistics show that killing, by whatever method, does not have any effect on reducing overpopulation num-

bers, unless accompanied by neutering campaigns.

Where does Japan stand?

In the past few years a growing number of animal pounds (hokenshō or kanri centres) across the country have been begun calling themselves 'love animal' centres or 'animal well-being' centres. What does this term mean and how are they different from the old animal extermination centres? We went to find out by visiting the Hyogo

Prefecture 'Animal Well-Being Centre' situated in Amagasaki city. The centre built at a huge cost opened two years ago.

The centre is well laid out and landscaped with trees and grassy patches, a cross between a theme park and a mini zoo. There are some 'odd-looking' racks called 'dog parking' where people can tie their pets. Rather strange that despite being called an animal well-being centre, pets are not allowed inside the build-